



み3



タヌキは
昔話では
いろんなものに化けて



第12回 タヌキ

山里の生きもののイメージがあるタヌキですが、海に近い平野部にある河北潟にも、たくさんのタヌキが住んでいます。タヌキは夜行性なので、昼間はほとんど見かけることがありませんが、いくつかの証拠から、河北潟の水辺や干拓地、周辺の集落や水田地帯に、広く生息することがわかっています。ただし残念なことに、タヌキの生息の証拠として一番目立つのは、交通事故の死体です。とくに目立つのは、干拓地の幹線道路や津幡バイパスの狩鹿野から舟橋にかけてのあたりです。1年間で何個体もの死体を見かけます。

次の証拠は、「ため糞」です。タヌキには複数の個体が特定の場所に糞をする習性があり、その共同トイレを「ため糞」といいます。大きなものでは、古い糞の上に新しい糞が何層にも積み重なって、直径50cm以上にもなります。河北潟でも、中央幹線排水路のコンクリート護岸に沿って、いくつものため糞が確認されています。普段の通り道のいくつかのポイントが、ため糞場として利用されているようです。ため糞は、なわばりを持たないタヌキ社会のコミュニケーションの場となっているようです。

次によくわかる証拠として、タヌキが残した足跡があります。タヌキの足跡は梅の花紋のような形で、餌を探してふらふらと歩いているので、蛇行して点々と続いています。降雪の後、足跡を調査するとタヌキの行動の様子が解ります。また、哺乳類を調査する時には、夜間にセンサーカメラを仕掛けますが、タヌキは河北潟で良く撮影される哺乳類のひとつです。2004年から2005年にかけて実施した調査では、干拓地内の防風林付近の3カ所、草の茂る河川敷の1カ所、湖岸沿いの3カ所でタヌキが撮影されました。いずれも地点の近くに、普段人が立ち入らないヨシ原などの草地や低木林、防風林がまとまっ

てみられる場所です。日中そうした草原や林で休息しているようです（川原 2006）。

金沢ではときどき旧県庁付近などの街の中心部でタヌキが出没したことが、テレビや新聞のニュースになります。もう15年以上前になりますが、当時、金沢城址でタヌキの生態を研究していた金沢大学の院生から、調査結果について聞いたことがありました。タヌキに小型の発信器をつけたところ、その発信音のトレースが大学の構内を通過していたのです。タヌキが大学の廊下を闊歩するわけではなく、どうも地下の下水道を、通路として利用していたようです。私が兼六園横の本多の森を調べた時にも、古い土管を使っているような様子がありました。都会の中に侵入したタヌキは、こうした人から見えないルートを使って、神出鬼没を繰り返していたのかも知れません。（文：高橋 久）